令和７年４月 19 日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾　北関東フォーラム
令和７年度 第４回

トランプ大統領の影響と世界情勢

おはようございます。開会の挨拶で村井理事から、世界を振り回しているトランプ大統領を分析して欲しいという要望がありましたので、その話から致しましょう。

１、グローバリズムの破壊

トランプさんは本人の意思に関係なく、生まれるべくして生まれた大統領なのだと思っています。グローバリズムがもう終わりだということが世間に広がって大分経ちました。そのグローバリズムに引導を渡すことが、今のアメリカ大統領の役どころであると思っています。

グローバリズムは、自分の国が素晴らしいと思うものを世界各地に売れるし、世界各地から買えるという体制です。安くて良いものを何時でも何処の国からでも買えるし売れるようにしたいと願って、世界はグローバリズムに変わったわけです。

ところが今や、その不都合が世界全体に広がっています。特に異常だと思うのは、超巨大企業なるものが誕生しました。日本が失われた 30 年と言っている間に、ＧＡＦＡＭと呼ばれる企業が誕生したし、続いてそれを追い越そうという巨大企業が生まれつつある。既に国家を追い越すような企業が、アメリカから生まれてしまっています。

各国は自給自足体制をつくっておかねばならない状態になっています。アメリカの大統領はそれを促進しなければいけないわけです。ですから本人が意識するしないに関わらず、今の世界の貿易体制を破壊する役回りを担っていると言えます。たまたまトランプさんは、ぴったりのキャラクターではないでしょうか。トランプさんが派手に動けば動くほど、世界の貿易は壊れる。壊すために生まれたのですから、トランプさんが一生懸命やればやるほど、世界各国は滅茶苦茶になって当たり前です。先ほど村井理事が言われた理不尽、やりたい放題、そういう流れが滔々と世界各国で動いています。

そうしてみると、世の中の秩序であるとか判断基準を、根底からとは言いませんが、相当深い部分から見直さなければならない時期に入ったと思っています。

例えば、木村さんは仕事でスーツを作っていますが、「うちは特別な仕立てをするから、従来の倍額いただきます」と言って、買ってくれる人がいれば良いわけです。そういう時代になるかもしれません。お米にしろ普通の食べ物にしろ、大まかに言って 2 倍近い金額になっています。誰がそうしたのかというよりは、これは時代の流れだと思います。

私自身が感じているものでは、都内のビジネスホテルの料金が、以前は素泊まりで 9000 円くらいでしたが、最近は 2 万円を超す日もあります。ホテル業界は変動制が当たり前になっているのだと思っていたら、先日の新聞に、帝国ホテルをはじめとして大手ホテル 15 社が談合していたという記事がありました。当然、その流れがビジネスホテルにも回って、9000 円が 2 万円を超しても当たり前になったわけです。そういう状況になり出してから、おそらく一年足らずだと思います。急激にその流れが表面化してきました。

時代の流れとしては、トランプさんにはグローバリズムを破壊する役割があった。これがトランプ分析の第一です。

2、自給自足体制の確立

このところの世界各国の動きは、トランプ大統領の関税政策に振り回されています。トランプさんは、自分は良いことをしていると思っているわけです。アメリカファーストと言って、アメリカがこれで良くなると、一応信じ込んだ形で喋っています。しかしその流れは、村井理事も指摘された通り、トランプファーストだと私も思います。

では、トランプファーストで進んだ場合、アメリカの国はこれからどうなるのでしょうか。例えば、日本からアメリカにペットボトルの飲み物が輸入される。今まではそれが 1 本 100 円で買えたけれども、関税 100%をかけたら 200 円になってしまった。美味しいか不味いかは別として、200 円の日本の飲み物を飲むよりも、120 円で買える自国の飲み物を飲もうじゃないか・・・そうやって自給自足体制が確立するわけです。自給体制の確立がトランプ大統領の二番目の分析です。

尤も、トランプさんは自給自足と声高に言いません。アメリカファーストという言い方をしています。アメリカファーストとは一体何なのか。第一の分析でも言いましたが、これはトランプさん自身が真剣に考えて分析し確信を持ってやっているわけではなく、無意識でやっている部分です。結果としてアメリカは外国から物を買わずに、自分の国で作ったものを食べる。自分の国で作った車に乗るようになる。日本流に言うと地産地消です。日本で見れば、車も日本の国で作れるのだから日本車に乗れば良いわけで、別に外車を乗り回す必要はないわけです。

トランプさんはやはり、自分の国を誇りに思っているのだと思います。アメリカはもともと移民で出来た国ですから、余計に自分たちの国という思いが出ているのでしょう。自分たちの国で生まれた巨大企業があちこちの国に出て行くことは何も言わないが、他所から日本人がやってきて、カーネギーが作った会社を買い取ろうなど、とんでもないと思うわけです。アメリカ人にとって、カーネギーは誇りなのです。カーネギーの墓には、「自分より賢き者を近づける術を知りたる者、ここに眠る」と刻んであるようです。トランプさんの心の中にも、無意識のうちにそういう感情が入っているのでしょう。自国のものを愛するという無意識の感情が、アメリカ国民の潜在意識に繋がってきた。それが表明化したのが、トランプ流のアメリカファーストになるのでしょう。

世界全体の流れで見ても、自国の物産を愛することは、どこの国でも同じです。おそらくトランプさんはそんなことは考えていないでしょうが、分析とは本人が考えてないことも掘り下げていくことによって見えてきます。

3、判断の三原則

皆さんにご紹介している『木内信胤語録』の中で木内先生は、「アメリカが凄まじい勢いで転落する。それが日本人にもはっきり分かるには、十年やそこらはかかるだろう」と言っておられます。ということは、アメリカがグローバリズムを破壊する役どころを担うことを木内先生は直観で感じ、それを分析して私どもに教えて下さったと思っています。

分析に関して木内先生は、「総合的直観力が必要だから、是非それを身に付けなさい」と言われました。「直観」とは、カン・ひらめき・悟性、そういうものだと思います。これらを身に付けるには、従来の言葉で言えば、虫の眼・鳥の眼で見ることです。虫の眼とは、 小さな虫が地面の隅々まで見るように細かい部分まで見る。 鳥の眼とは、鳥が空から地上を見渡すように広く全体を俯瞰する。つまり、大局でものを見る視点が必要です。

大局的に見るには、「判断の三原則」と一体化しなければいけません。何度も申しますが、「判断の三原則」の第一番は、物事の本質を見極めることです。二番目は歴史的に見る。税金を例にとれば、歴史で眺めると、税金を取り過ぎた国は潰れています。日本もこれだけ高い税金をとっていると、日本の国は滅びます。三番目が大局的に見る。本質・歴史・大局の三つの視点で見れば、国家のことも見えるし、自分が携わっている商売も見える。自分自身悩んだり苦しんだりしている場合も、三つの視点で判断すれば良いわけです。

ということで、第三の分析は判断の三原則です。これを忘れても、自分の直感で判断すれば良いということになります。ただ、自堕落に過ごしている人はダメです。一生懸命前向きに学び、考え、何かで悟る。そういう繰り返しをしている人は、直観が磨かれてきま

す。自分の直観力は信用できる、そう思えたなら素晴らしい。それに総合が加わって、総合的な直観力になれば文句ありません。これが第三の分析で、総合的直観力を磨いているかいないかで、分析力がはるかに向上します。

第一の分析の補足を致します。現時点で、世界はグローバリズムで動いていると申しました。グローバリズムとは、世界を一つにしましょうという体制です。飛行機が空を飛び、車は地上を走り、海の上には船が行き交っています。それらを更にスピードアップしていくことによって、日本で作った物を凄い速さで世界各国に届ける、世界各国の物が日本に届くわけです。これは人間にとって良いことでしょうか、悪いことでしょうか・・・。お金儲けには良いことでした。過去形です。しかし、もう駄目なのです。なぜ駄目なのか、ヒントを申します。

中村天風先生は、「殺されるときに鳴き声を上げる動物の肉はなるべく食べない」「食べるにも、とろけるような霜降りの肉はやめたほうがいい」と言っておられます。

そういえば今の日本人は、堅いものを食べなくなりましたね。肉も、腐る寸前の柔らかい肉を美味しい美味しいと言って食べています。ですから今の人は顎がほっそりしています。この間、都内に泊まってコンビニで朝食用のパンを買ったのですが、パンの棚を見て驚きました。クリームのたっぷり入った菓子パンがずらりと並んでいました。こういうパンを若い人は好むのでしょう。それを見て、日本の国が滅びる前兆の食品を売っているなと感じました。

グローバリズムがどこで終焉を迎えたかを見るには、スーパーで食べ物を見れば良い。それからコンビニで何を売っているかよく見れば良いでしょう。自分が食べたいものだけをパッと見て買うのではなくて、それらを客観的に見る習慣を持って下さい。客観的に見て、これは体に良くないものを売っているな・・・体に良くないものを売る理由は何なのだろう・・・儲かるからだ、と考える。儲からないものを売っている所は、なぜ儲からない物を売るのか・・・主義主張がここにはある・・・主義主張は何かを考えて食品を買う。主義主張がびっしり詰まっている食品、主義主張がびっしり詰まっている車、洋服・・・そういうところに思いを致していくと、その国の文化度・文明度が見えてきます。

したがってグローバリズムを考えるということは、文化がどういう状態なのかを見る。そうすると日本の国の歴史も見なければならないし、大局も見なければならない。全部一体化してきます。

ということで、トランプ分析の１のグローバリズムの破壊は、文化を意識していないがために無意識で動いたということになります。

以上で、村井さんのリクエストのトランプ分析については終わりにします。

今朝の新聞から

前半の残り時間、時事評論を申します。

今朝の上毛新聞には嬉しくない記事が沢山ありました。一言で言うと、政府のアホさ加減ばかりでした。自民党の青年局長が石破さんに対して、アホとばかりに色々な緊急提言をしています。自民党内部からも造反されたのでは、話にならないという氣がしました。

それから備蓄米の放出です。これも石破さんの判断力の遅さ、決断力のなさが表面化しました。江藤農水大臣が備蓄米の放出を考えていると発言してから、実際に備蓄米が出たのは二ヶ月後です。それも、石破首相が言ったからやりました･･･というのですから、これまたアホですね。人より優れているから大臣になって、日本の国を運営していく一員になっているわけでしょうが、自分で決められない大臣と自分で決められない総理大臣、いったいどうなっているのかと新聞を見てつくづく感じました。

更に、兵庫県議会の百条委員会委員長に対して、大量の誹謗中傷メールが届いたという記事。「鉈で襲われとけ、パワハラ野郎！」とか「自殺しろ！」等、受け取った本人は恐いと思います。こういった誹謗中傷メールを匿名で出せるのですから、日本の国は緩いですね。中国でそんな事をすれば、すぐに逮捕されるでしょう。

ということで、日本の国の酷いこと、酷いこと。新聞を広げたら、情けなくなる記事が沢山出ていました。

命を知らざれば・・・

では後半、論語から参ります。今日の論語は「命」を取り上げました。私が読みますので、後についてご一緒に素読を致しましょう。

（素読）

① 子 罕(し まれ)に利(り)を言(い)う。命(めい)と与(とも)にし、仁(じん)と与(とも)にす。

（子罕第九・1）

孔子は、利についてほとんど言われなかった。まれに言われる時は、「命」（天命）や「仁」に関連して言われた。

論語の中に「利」という言葉が出るのは、わずかに 6 回。「仁」という言葉はかなり沢山ありますね。学者によると、60 回以上だそうです。ですから孔子は「仁」という言葉が好きで、是非伝えたいと思って、何かにつけて「仁」を言っていた。「利」については、

あまり好きではなかったのでしょう。側に、口八丁手八丁で利益を上げる事が上手い子貢がいましたから、利益の話は子貢にでも聞きなさい…（とは、どこにも書いてありませんが）そういうニュアンスがあったのだろうと私は感じています。

ですからここは、利益のことはあまりがめつく言わない方が良い、とお考え下さい。

② 伯牛（はくぎゅう）　疾（やまい）有（あ）り。子（し）　之（これ）を問（と）う。牖（まど）より其（そ）の手（て）を執（と）りて曰（いわ）く、之（これ）を　亡（うしな）わん。命（めい）なるかな。斯（こ）の人（ひと）にして斯（こ）の　疾（やまい）有（あ）るや。斯（こ）の人（ひと）にして斯（こ）の　疾（やまい）有（あ）るやと。

（雍也第六・8）

徳の高い伯牛という弟子が死病に罹った。

孔子が見舞いに行き、窓から手を差し伸べて伯牛の手を握って言いました。

「伯牛が死んでしまう。これは運命なのだろうか。このように素晴らしい徳行の人物に対して、天はなぜこの病を与えたのか。天はなぜこの病を与えたのか。」

伯牛の病は、らい病です。手や顔面がただれて腐ってくる、触るとうつる業病です。天命であるならば、私は天命を怨む。悲しくて悲しくてたまらないという氣持ちが込められています。

「斯の人にして斯の病有るや」と２回繰り返していますが、読む時に抑揚をつけましたか？　ここは孔子の心がこもっています。そうすると読み方が自然と変わってくるはずです。失望や落胆が読み方に入ってくると良いでしょう。詩吟をする時も、気持ちがこもると吟じ方が変わってきます。

余談ですが、最近の歌は聞いていて分かりません。昭和歌謡など心がこもっている歌を聞くと、ああそうだよなと思いますが、若い子が身振り手振りで歌っているのは、どうしても分からない。時代が変わったのだなぁと思ってしまいます。

③ 子（し）　曰（いわ）く、道（みち）の将（まさ）に行（おこな）われんとするや、命（めい）なり。道（みち）の将（まさ）に廃（すた）れんとするや、命（めい）なり。公伯寮（こうはくりょう）　其（そ）れ命（めい）を如何（いか）にせんと。

（憲問第十四・38）

公伯寮は魯の国の人で、孔子のお弟子さんの中では一番武力に長けていると言われた人物です。

子路が魯の国の季氏に請われて、今で言う総理大臣になりました。公伯寮が季氏に、子路はやり過ぎだと讒言をしたわけです。魯の大夫の子服景伯がこれを孔子に告げて、「私

は公伯寮を罰することが出来ますが、如何しましょうか」と尋ねました。その後の孔子の科白です。

子路は私の考え方を行っている。子路がその道を実行できれば、それは天命だと受け止める。もし（讒言によって季氏の目が曇り）その道が失敗しても、天命だと私は受け止める。公伯寮ごときが、天命をどうにかすることなど出来ない。

・・・公伯寮が何を言ったとしても、私の考えはびくともしないし、それを受けた子路もびくともしないと言っています。

④ 子曰く、命を知らざれば、以て君子為ること無きなり。礼を知らざれば、以て立つこと無きなり。言を知らざれば、以て人を知ること無きなり。

（堯曰第二十・3）

天命を知らない人間は君子の資格がない。

礼が分からなければ、しかるべきポストに就くことは出来ない。

人の話を聞いて、その言葉の意味、真意が分からなければ、人を理解することは出来ない。

命・・・知識として天命を知っているというだけでは、ものにならない。体を通じて感じる、体得すれば、君子（素晴らしい人物）と言える。

本を読んで知っている、聞いて知っている、というのは知識です。知識は横の学問です。例えば、喉が渇いたら水を飲めばよいと知識として知っている人と、本当に喉が渇いて水が欲しいと思っている時、水を飲んでしみじみ味わったなら体得できます。

礼・・・礼の道を体得していれば、世の人も放っておくことはない。

言・・・本当の言葉、言葉の威力、言葉の道を体で味わって体得していれば、人を知ることができる。

ここは、一つの道を体得していれば何にでも通ずると捉えればよろしいでしょう。

天命についてまとめると、良いこと悪いこと、吉凶禍福は人間が如何ともし難いものです。人の力でもって、どうこうすることは出来ない力、それが天命であると受け止めれば良いでしょう。人の力の及ばざるものが天命であり、天命を我がものにすることが出来れば素晴らしい人間になり、素晴らしい事績・業績を残すことが出来るであろうと考えます。

恒例の質問

もう4月です。早いですね。私はシムックスを創業して50年経ちました。詩吟や真向法を教わり出して20年経ちました。そう考えると、過ぎたら一瞬ですね。ですから何か悩んだり苦しんだりすることがあっても、十年後はどう思うのだろうと考えた時、今苦しんでいることは大したことはない、片付いてしまうなと思えるものです。

中斎塾フォーラムも2年後には20年です。2年後に今日のフォーラムを振り返る意識で、「今日は、良いところを勉強しているね･･･」と思っていただくといいですね。そんなことを頭に入れながらお答え下さい。

〇良い日がずっと続いているなと思う方

世の中が良い日ではありません。自分自身にとって良い日です。

〇嘘はつかなかったし、嘘をつかれなかったという方

〇有難うと言い続けているし、有難うと言われ続けている方

〇身体の手入れをよくやっていると思う方

〇自分磨きもよくやっていると思う方

最後の質問は「明日を過去形で考える」ですが、今年は言い方を変えています。

〇昨晩寝る時、満足感をもって寝た方

満足感をもって寝るというのは、寝る寸前にタイムスリップして、明日の夜を考える。明日の今頃は「ああ、今日は良かったな」と思って寝ているだろうな・・・と思えれば、それで結構です。未来のことを過去形で考えるというのは、そういう考え方で良うございます。

令和7年を考える

今年は挑戦の年と申し上げています。何かにつけて今年は問題が多いという方は、自分が脱皮するためにこういう問題が起きるのだと思えばよろしい。ですから、今年は挑戦に次ぐ挑戦があって当たり前です。

干支で見ると、乙は乱れてどうにもならない年。巳（蛇）は脱皮をして生まれ変わる。色々なものにぶつかるたびに脱皮をし続けて、最終的には、私はここまでレベルが上がったかと思える良い年回りであるとお考えいただければよろしいでしょう。

では、判断の三原則で今年のキーワードを考えます。

1、税金の仕組みはこれで良いのか？

税金の仕組みはこれで良いのか、何回かお聞きしています。良いという人は一人もいません。多分、税務署の人もそう思うのではないでしょうか。

前回も申しましたが、江戸時代には五公五民だと一揆の筵旗が立ちました。今は、税金が６割、本人の手もとに入るのは４割、大体そんなものだと私は思っています。それに税金まがいを加えれば、私の感覚では、国が持っていくのは6.5割、本人が稼いだ手取りが3.5割です。そんな国は存在し得ないわけです。ですからこの国はどこかで筵旗が立たざるを得ない。したがって今の税制は、いつ変わるとは言えませんが、変わります。

なぜなら、政府を構成している官僚の酷さ加減、何も分かっていません。税務署は税金を如何にして取るかということしか考えていません。それぞれが皆、全く同じでしょう。自分の仕事は自分の目先の部分しかやらない。

したがって、政府は変わる。倒れて、新しい政府ができる。官僚も同じく入れ替えになる。政治家も全部入れ替えねばならない状況になる。・・・これで税金の仕組みが変わります。

2、なぜ日本は弱体化したのか

日本が弱体化したのは、政治家も官僚も劣化したからです。

3.食べ物が無くなる日は来るか？

食べるものがなくなる日は、来るに決まっています。

シムックスでは昨年から農業プロジェクトを立ち上げました。第一段階として、各営業所でプランターで野菜を栽培し、ブロッコリーや二十日大根、ほうれん草などを収穫しました。今年はフレコンバックというもので、じゃがいもやサツマイモを作ります。

そして来年は、ある程度の広さの菜園で作物を作ろうと考えています。それが続いていけば、それぞれの家庭菜園が出来る。家庭菜園が出来たら、会社が直営で農場を作る。最終的には、シムックス型スマートシティの中に農場を作りたいと思っています。それには何年もかかるでしょう。

米がなくなる。食べ物がなくなる世の中が来る。そのために農業プロジェクトを一生懸命やっている最中ですから、せめてさつま芋が収穫できる頃まで、食べ物のなくなる日が来ないことを願っています。

4.日本は戦争に巻き込まれるか？

今もう巻き込まれています。見えないだけです。

5.少子高齢化のもたらすものは何か？

当然、日本という国がなくなります。どうすればなくならずに済むかは、次回のフォーラムでお話を致します。

お時間になりましたので本日の講話は終了です。有難うございました。